

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 2月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3 4 7 0 5 0 2 1 3 3
法人名	社会福祉法人 天 寿 会
事業所名	グループホーム 楽々八景山
所在地	広島県呉市焼山町字打田623 (電 話) 0823 - 34 - 1388

評価機関名	NPO法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4 - 46 - 9
訪問調査日	平成20年1月28日

【情報提供票より】平成19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9人 人
常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨RC 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	11,400 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

(4) 利用者の概要(12 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	72 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	脇田 医院 田口 歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

団地に隣接し、田畑や木々の緑に囲まれた広い敷地内にある施設の一つがグループホーム楽々八景山である。建物の二階がグループホームで一階の大部分がデイサービスとなっているので入居者は自由に入出りができ楽しい時間を過ごしている。各自の居室は基準の2.3倍で広く室内に洗面所も設備されている。入居者9名の内要介護度1、2が8名で全体の雰囲気は家庭の延長を思わせた。職員全体に理念の実行を目指す姿勢が見られた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>新人職員も2年目を迎え状況の把握ができるようになり、家族の要望などを聞き入れて、介護計画に組み入れて支援している。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設して2年目、施設長はじめ職員全員のやる気は動作に表れており、入居者とのかわりは穏やかで丁寧さを感じさせた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2か月に1回開催される運営推進会議では決まったメンバーが集合し、主に施設からの報告が議題の中心で話し合いが行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の家族は毎月1回訪問して支払いをされるよう要望されて、訪問時に入居者の状況説明を受け又家族からの相談や苦情などを自由に発言できる体制がつけられ、意見を集約しつつ運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くのスーパーへの日常的な買物や、隣接している特養、自治会等と協力が密にとられ、盆踊り大会、ソーメン流し、等のイベントに参加している。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に全員で考え作り上げた「私たちは、愛情と笑顔を絶やさず、皆様と共に尊敬しあえる、健康で豊かな暮らしを目指します」という理念を毎日朝礼時に唱和している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内、リビングルームにも理念は掲示されており、常に初心に返るように心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接する特養や自治会と協力し盆踊り大会、ソーメン流し等のイベントに参加している。又自治会との連携で地域の人々がホームを訪れることも度々ある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員全員が評価の役割を理解され、改善点を話し合う機会が作られている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初年度はホームの生活状況を中心にした議題であったが、今年度は認知症の行動、その思い等を理解してもらうよう努めている。		

グループホーム楽々八景山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市側の担当者は運営推進会議に出席して施設の説明は受けているが施設側は市本庁に出向きいろいろな問題の相談を持ちかけて質の向上に役立たせている。		施設の担当者が市本庁に出向いて行き、行政と本音の部分まで話し合っている。
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1か月に1回家族の訪問時に日常生活状況記録を見せて、説明されている。又「八景山だより」を手渡し、金銭管理ノートも見てもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と毎月顔を合わせているので、自由に、気軽に意見や不満を述べてもらっている、ホーム独自のアンケート調査を行って運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動はありません。 新しい職員を採用する場合は認知症に理解がある職員を採用することになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受けそれを伝達講習で職員全員が理解できるよう取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者の見学は受け入れているが具体的な活動はしていない。		運営理念に沿って、施設長、全職員一丸となってホームの運営に取り組み入居者の穏やかな生活の雰囲気を作られています、職員よりの要望もあり、他施設との交流や勉強会を持たれることにより職員のモチベーションの向上も図られ、一層のサービスの向上が図られることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前は、事前面接や家族同伴の施設見学等を時間をかけて行い、家族と相談をしながら入居を勧めている。</p>		<p>特記 入居時に、「家族が1か月に1回はホームを訪問すること」を条件的に家族にお願いし、職員と家族との馴染みも深まり、連携を密に保ちつつサービスの向上に努められております。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者を年長者としての敬意を保ちながらも、家族関係の雰囲気を作ることに努め、会話が楽しく交わされ、一人ひとりの過去の経験を引き出して入居者の日常生活に寄り添っている。生活の中で職員が学ぶ事柄も多々ある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の日常の生活の特徴や癖等の把握を十分にしておき、家族の意見を取り入れながら、本人にとって「何が最良か」をミーティングで検討しながら支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、訪問される家族、職員全員が馴染みの関係が作られているので自由に意見や要望が出されて、職員全員で検討して介護計画の作成に活かされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>協力医院、看護師の意見を聞きながら、状況変化に対応し家族に相談しつつ介護計画の見直しは現状に即して行っている。</p>		

グループホーム楽々八景山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設長が代表を兼務している一階のデイサービスに自由に参加したり、隣接する特養のイベントに参加、又ホームが所有する畑の草取りを喜んでされる入居者もあり、本人の要望や体調に合わせた柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時家族に説明をし納得をもらった上で、掛かり付け医と訪問看護ステーションによる月2回の往診を受け、適切な医療を受けられる体制が取られている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前面接時に重度化に伴う確認書を説明され、事業所としての対応し得る最大のケアについて真剣に取り組まれている。		入居時要介護1だった入居者が現在は要介護5になり、家族との話し合いの結果、終末期も現在の生活の延長上で迎えていただくことになり、職員のケア体制も準備され入浴は2人体制で支援されるなど、又掛かり付け医、看護師との連携もとられている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員のミーティングで確認し、入居者の人格の尊重を最重点にして、理念に掲げている「共に尊敬しあえる」人間関係を作り上げている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の気持ち尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。		

グループホーム楽々八景山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と同行の買い物で好みの食材を求めることもあり、食事の準備、後片付けをする方等、役割を入居者自身で進ん分担され、職員と共に楽しみながら行われている。職員は入居者と同じテーブルでさりげなく支援を行いながら食事を摂って和やかな雰囲気があった。嚙下対策もとられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	少なくとも週2回の入浴の支援を行うことにしているが、本人が希望すれば何時でも入れる仕組みが取られて、殆どの方が週3回以上入浴されている。入浴は安眠につながる夕方におこなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	室内の清掃の声かけで、気分が向かれば熱心に清掃をされる入居者もあり、ベランダには簡単な畑仕事の道具が用意されて暖かい日には畑の草取りを自分の役割としてされる入居者もあり、職員の意欲にも助けとなることもある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調に合わせて近所への散歩や買い物の同行を行っている。時々車は車で出かけてデパートへ行ったり、フェリーに乗りたい希望も実行に移されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法が確実に行われて、日中は施錠はされていない。時々一人で外出される入居者もあるが、職員が同行して散歩に変えて支援することもある。夜は安全第一であるので施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の災害訓練を行い、緊急時の連絡網も完備されているが、併設のデイサービスや特養との連携が必要と考慮される。		立地条件的に地域の人々の協力が困難な点もあると窺われるが、運営推進会議などで協議されて、近隣地域からの協力体制が得られることが望まれます。

グループホーム楽々八景山

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が毎食入居者と同じテーブルで食事をとり、毎回の食事摂取量や水分量を観察し、食欲を促す声かけも、摂取量を記録をして職員で共有している。入浴後の水分補給、夜間の水分補給等も確実にを行う体制である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングは食事用のテーブルが備えられている場所とゆったりとソファーで寛げる場所が用意されて、広いベランダからの採光はよく、外の自然の景色を楽しみながら過ごせる快い空間となっている。入居者と職員はテーブルやソファーでそれぞれの自然体で談話されている光景が見られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「入居者の家族が時々は宿泊も可能なように」との施設長の説明がされ、居室は面積が広く自宅で使われていたタンスや小テーブルが置かれ、仏壇を持ち込まれている居室もあり、入居者は自宅に住まわれている感覚を持たれている様子が見受けられる。		